

平成26年度地域づくり表彰事例の概要

表彰内容 団体名 (都道府県名・市町村名)	活動の概要	問い合わせ先
<p>国土交通大臣賞</p> <p>浪江焼麺天国</p> <p>(福島県浪江町)</p>	<p>常磐自動車道浪江ICの開通による交流人口の増加を目指し、商工会青年部を中心に平成20年に「建国」。浪江町で約60年前から親しまれてきたご当地グルメ「なみえ焼そば」をツールに「食によるまちおこし」に取り組んできたところ、東日本大震災及び福島第一原子力発電所の事故が発生。麺バー(メンバー)も避難を余儀なくされる中、全国に分散避難している町民の絆の維持「心の復興」、そして震災を風化させない「まちのこし」を合言葉に活動を継続している。</p> <p>震災直後の厳しい環境の中、町民への炊き出しを実施するなど活動を再開(平成23年4月)し、平成25年に開催されたB-1グランプリin豊川ではゴールドグランプリを獲得。さらに、平成26年開催のB-1グランプリを郡山市に誘致するなど、全国に避難している町民に勇気を与えただけでなく、町の現状発信等にも大きな成果を挙げている。</p>	<p>浪江町 復興推進課</p> <p>0243-62-4731</p>  <p>震災直後に活動を再開した時の様子</p>
<p>全国地域づくり推進協議会 会長賞</p> <p>昭和村さくら工房</p> <p>(群馬県昭和村)</p>	<p>地産地消を推進しつつ、安全で美味しい加工食品を消費者に届けることを第一の理念として掲げ、平成9年に団体を設立。農家女性ならではの「手づくり・こだわり・思いやり」をモットーに、地元の農産物を利用した様々な加工品(味噌、菓子、ジャム、こんにやく、ジュース)の製造に取り組んでいるほか、地元農産物を通じて友好都市との連携・交流を深めるなど活動の幅を広げている。</p> <p>平成23年には、道の駅「あぐりーむ昭和」が設置されたことに伴い、道の駅内の農家レストランの指定管理者となり、日本一の生産量を誇るこんにやくを使った「こんにやく定食」を提供するなど、更なる地産地消の推進に向けて、創意工夫を凝らした様々な活動に取り組んでいる。</p>	<p>昭和村 産業課</p> <p>0278-24-5111</p>  <p>味噌の仕込みの様子</p>
<p>全国地域づくり推進協議会 会長賞</p> <p>岩屋緑地に親しむ会</p> <p>(愛知県豊橋市)</p>	<p>平成12年度に豊橋市教育委員会の主催で開催された市民大学トラム「里山管理ボランティア養成講座～岩屋緑地を活かす～」の修了後に、その修了者によって立ち上げられた地域のボランティアグループが、現在も岩屋緑地内の環境整備や緑地内の資源を活用したイベントの開催に継続的に取り組んでいる。</p> <p>また、小中学校等の自然観察会等の受け入れや総合学習への講師の派遣をはじめ、緑地内の竹林整備で発生した伐採後の竹を、この地域が主催する「灯籠で飾ろう二川宿」に竹灯籠の材料として提供しているほか、当該イベント自体にも多くの会員が参加するなど、本来の緑地内の環境整備にとどまらず、魅力ある地域づくりに向けて活動を大きく発展させている。</p>	<p>豊橋市 文化市民部 市民協働推進課</p> <p>0532-51-2482</p>  <p>岩屋緑地の様子</p>
<p>全国地域づくり推進協議会 会長賞</p> <p>美里フットパス協会</p> <p>(熊本県美里町)</p>	<p>美里町全域にフットパス(歩く小径)を選定・整備していた「美里町振興協議会」を母体として、美里町商工会等との連携により、平成25年に設立。</p> <p>地域に残る素晴らしい景観や自然、食などを価値ある素材として捉え、これらを「歩く」ことで楽しむ活動(フットパス活動)を、町内の多くの地域と連携して実施しており、フットパスコースの維持管理、マップの製作・発行、フットパスウォークの企画運営等の活動を行っている。</p> <p>現在、美里町のフットパスを参考に、熊本県内はもとより九州全域でフットパスを地域づくりに取り入れようとする動きが急速に拡大するなど、自らの活動にとどまらず、フットパス活動の更なる普及・啓発に向けて、協会が中心的な役割を果たしている。</p>	<p>美里町 企画観光課</p> <p>0964-47-1111</p>  <p>九州フットパスの集い</p>
<p>日本政策投資銀行賞</p> <p>美幌ブランド開発検討委員会</p> <p>(北海道美幌町)</p>	<p>「交流人口を増やし、まちの活性化につながる特産品を開発したい」との商工会議所の呼び掛けに対し、飲食店、精肉卸、自治体、農家、若手経営者に加え、地元の高校生も参加し、平成21年に活動を開始。</p> <p>こうした情熱に共感した、食品加工の専門家、大学教授、東京のシェフなども活動の応援団となって、特産品の開発を推進。特に、約3年をかけて開発した、豚肉を原材料に製造した醤油「美幌豚醬まるまんま」は、地域に喜びと元気を与えるヒット商品となった。</p> <p>現在は、高校生も含めた委員有志が出資して設立した「合同会社びほろ笑顔プロジェクト」を中心に、関連商品の製造・販売に取り組むなど、活動を更に発展させている。</p>	<p>美幌町 総務部 まちづくり グループ</p> <p>0152-73-1111</p>  <p>美幌豚醬まるまんま</p>
<p>審査会特別賞</p> <p>大道芸ワールドカップ 実行委員会</p> <p>(静岡県静岡市)</p>	<p>既存の街並みなどを使った言葉の要らないコミュニケーション(DAIDOGEI(身体アーツ))によるフェスティバルの開催を通じて、「人づくり」や「街の活性化」に貢献すること等を目的に活動を開始し、20年以上継続している。</p> <p>現在では、出場アーティスト数や観客動員数などでアジア最大級のフェスティバルに成長したばかりではなく、大会を盛り上げるスタッフである「市民クラウン」を養成する「大道芸カレッジ」の開講をはじめ、東日本大震災からの復興を支援する「スマイルキャラバン」の実施のほか、次世代の人材を育成するプログラムである「明るい未来の楽校」の開校等、幅広い活動を展開し、「静岡」＝「大道芸」という新しいイメージの定着にも大きく貢献した。</p>	<p>静岡市 経済局商工部 観光・シティプロ モーション課</p> <p>054-221-1228</p>  <p>フェスティバルの様子</p>